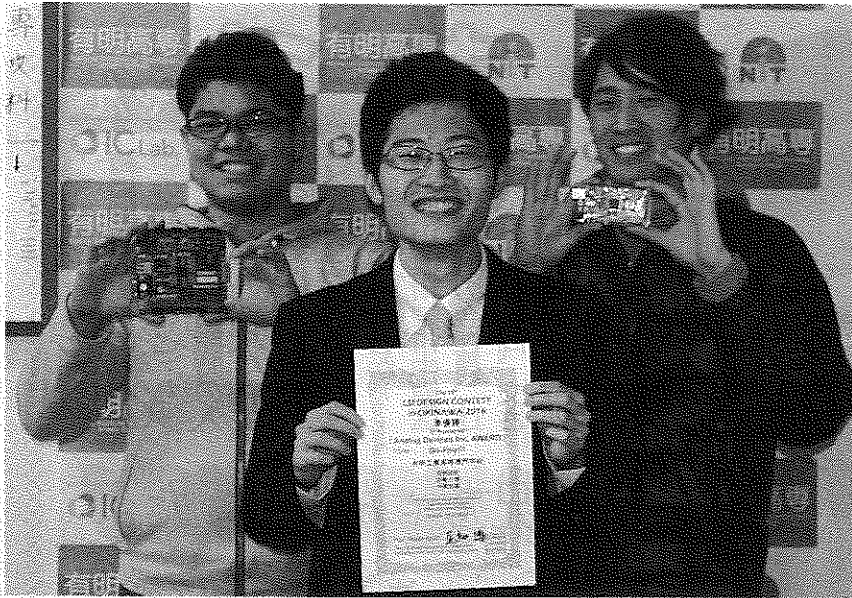


国際コンテストで準優勝

2年連続 ノウハウ共有 実を結ぶ

有明高専

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校(福島健郎校長)のチームが、LSI(高密度集積回路)デザインコンテストで準優勝した。準優勝は平成26年度に続き2年連続。24、25年度の敢闘賞と合わせて4年続けての入賞で、先輩と後輩のノウハウ共有が実を結んでいる。



準優勝を果たした近藤さん、安部さん、中尾さん(左から)

テーマ。同高専は生産情報システム工学専攻科2年の近藤一輝さん(22)、同専攻科1年の安部成就さん(21)、電子情報工学科5年の中尾太陽さん(20)でチームを組んで挑戦。近藤さんは前回も出場し、他の2人は初めて。

国内やタイ、ベトナム、インドネシアから30チームおよそ100人がエントリー。13チームがファイナリストとして、このほど行われた琉球大学でのプレゼンテーションに臨んだ。

同システムは最近の自動ブレーキシステムなどに使われている。同高専チームは「テンプレートマッチング法に着目した画像探索」と題してイメージが簡単に分かるシステム、それを実際に応用できるシステムの両方を開発。昨年12月

同コンテストは九州、沖縄や東南アジア地域の半導体産業やエレクトロニクス産業振興を目的とする学生向けの設計コンテスト。琉球大学と九州工業大学の教員で構成される実行委員会が主催している。

19回目の27年度は「人物検出画像処理システム」が

「先輩とノウハウを共有でき、引き継ぎもうまくいきました」(近藤さん)「うれいですが、優勝を狙っていたので残念な思いもあります」(安部さん)「これを機会にもっとスキルアップしたいです」(中野さん)と感想。3人を指導した電子情報工学科の石川洋平准教授は「先輩は学んだ知識をうまく引き継ぎ、後輩がそれを生かしています」と話していた。

(高本 明)